



これが私の指導法 ～知的財産の継承～

学校での学びの特徴の一つは、それぞれの生徒の学びの交流による発展にあると考えています。さまざまなレベル、さまざまの生徒がいて、それらが絡み合うことで思われぬ

力を生み、共に解決していく。そういう集団としての機能を、授業の中でも活用した、関わり高め合う学習を目指しています。

授業の構成として、読み→発問→ペアやグループ交流→発表という流れを組み、その中で取り組んでいることを紹介します。

まず全員的に確な発問を提示し、じっくりと考えさせます。自信をもつて表現するために、思考時間・書く時間の確保は必要です。その際に、個に応じた指導として、机間指導に意識して取り組んでいます。

我が校の実践

東雲中学校
教諭 近藤 明子

『学び合う 教師集団を目指して』

互いに授業を参観し学び合う機会として「校内ミニ研修会」を企画・実施している。その肝は「短時間に」「効率的に」である。

①全員が「授業者と参観者」に

三人の授業者に三人の参観者。参観者は一人で15~20分ずつ三人の授業を見て回る。全員が授業者と参観者の両方の立場から授業分析ができるようになり、普段通りにねらいの達成を目指した授業を提供する。

②成果

学習課題を主体的に見出させるために気づきや驚きを大切にした導入、自分の考えをもち伝え合う際の視点の考え方、付箋紙や小黒板を使った思考の見える化、発言をつなぐ技術等々・授業者・参観者ともに得る

③アドバイスの共有

参観者は参考にしたい点や改善点等を付箋紙に書きながら参観し、それを三人で時系列に並べて授業者に渡す。授業後の炉邊での討論も大歓迎。授業者はアドバイスを「共有用シート」に入力。このアドバイスは後日全員で共有し、財産として積み上げていく。



板書でも思考を見る化

ものの大いに研修となつた。アドバイスを全員で共有することで、「話し合いの質を高めるための教師のコミュニケーション力の向上」という課題も新たに見えてきた。職員の協働性を高める機会となつたことも収穫の一つである。今後も学び合う教師集団として切磋琢磨していきたい。

机間指導では、生徒のノートからくとキーワードを見付けて、一人一人に「なるほど、いいね!」「この書き出しがいいね。」など、声をかけ、誉めながらノートに赤ペンを入れていきます。筆が進まない生徒は、そのキーワードをヒントにして書き進められるし、赤ペンで意味付け関連付けをして示すこともあります。同時に、座席表を使い、キーワードをグルーピングし、発表させる順番を決め、意図的指名につなげています。座席表のメモは、次の展開、授業後の評価に生かすこともできます。

ねらいに対しての効果的な指名をしていく内に、生徒の書いていることの付く授業」この両輪で実践していくからも「楽しい授業」、「力が豊かになれば、意図的指名ではなく、挙手なし発言も取り入れられるようになります。

これからも「楽しい授業」、「力が豊かになれば、意図的指名ではなく、挙手なし発言も取り入れられるようになります。



編集後記

校内では卒業の歌が流れ、様々な「引き継ぎ」が行われる時期となりました。子どもたちの元気な歌声、心のこもった歌声に成長を感じながら、今年度の成果を来年度につきありました。今年度の「教育のしろ」を寄せくださった心よりお礼申しあげます。(A)